

高知南版グローバル教育プログラム（探究型学習）

平成28年7月4日
高知県教育センター

I 研究概要

高知南中学校・高等学校では、課題の解決に向けて、思考力、判断力、表現力を身に付け、主体的、協働的に学ぶ生徒の育成を目指し、協調学習（知識構成型ジグソー法）を中心とする探究型学習の研究（「教材研究」、「教材開発」、「学習指導案研究」、「授業実践」、「評価方法」の組織的研究）に取り組む。平成27年度は、国語・社会の協調学習の研究と授業実践に取り組み、「事例集」を作成した。本年度は、教科を数学・理科に広げ、評価項目の研究も行う。

II 推進体制

高知南中学校・高等学校をグローバル教育の研究協力校とし、「英語教育プログラム」の開発と「探究型学習プログラム」の開発を行う。

高知県教育センターの体制			高知南中・高等学校の体制								
グローバル教育の担当 7名			探究型学習推進チーム 19名						教科会		
学校支援部長	1名		高 等 学 校	チーム長：高等学校主幹教諭					7名	4名	
チーフ	1名			初任者研修教科指導員	国語	-	数学	-			-
英語担当	5名	(常駐1名)		初任者	国語	-	数学	-			-
探究担当		(常駐1名)		2年経験者	国語	-	-	-			-
				3年経験者	-	-	数学	理科			-
				4年経験者	-	-	-	理科			-
			教科主任	国語	地歴公民	数学	理科	-			
			中 学 校	チーム長：中学校教頭					3名	3名	
				初任者研修教科指導員	-	-	-	理科			保体
				研究主任	-	-	-	理科			保体
				初任者	-	-	-	理科			保体
				2年経験者	国語	-	-	-			-
				3年経験者	国語	-	-	-			-

III 平成27年度の課題

- 「思考力」、「判断力」、「表現力」の育成を目指すより確かな探究型学習の指導法の研究
 - ・アクティブ・ラーニングの視点である「習得・活用・探究」の学習過程を重視するなど、学習とスキルとの結びつきを意識した授業づくりに取り組んだ。しかし、公開授業については教科会等で学習指導案検討や事後の研究協議を行ったが、日常的な授業の見直しにまではつながらなかった。
 - ・主体的、協働的な学びを重視した授業における学習目標や発問、評価規準の設定、学習目標に照らし合わせた振り返り等が、生徒の実態に応じた適切で明確なものになっていなかった。
- ICT機器（タブレット端末等）を活用したより効果的な指導に向けた授業事例の収集
 - ・ICT機器を活用した授業は増えているが、身に付けさせたい力に明確に迫る効果的な活用方法の実践や収集という点では不十分であった。

IV 平成28年度の実組

- 本年度の到達目標**
- ① 探究型学習推進チーム、中学校・高等学校教科会（国語、地歴公民・社会、数学、理科）が連携して、協調学習などのアクティブ・ラーニングを取り入れた授業の研究をさらに推進し、生徒が話し合いを通して自ら思考を広げ深めていき、表現できる効果的な指導法を研究する。
 - ② 「探究型学習（協調学習）事例集」を活用するとともに、第2集を作成する。

(1) 4月から7月までの主な取組及び当面の予定【参考別紙1・2】

月	推進体制	回数	主な取組
4 ~ 6	グローバル教育校内委員会	2回	① 今年度の目標、年間計画について ② 中間検証、提案授業結果分析報告、研究授業打合せ
	探究型学習推進チーム会	2回	① 研究内容、研究方法、年間計画等の説明 ② 進捗状況の確認、学習指導案検討、研究授業の打合せ
	探究型学習推進チーム 協調学習による提案授業	1回	・中学校3年生高等学校体験授業「国語（国語総合）」 ・協調学習による教材・授業づくり、事後研究協議
	教科会 〔国語科・数学科・理科〕	8回	・研究内容、研究方法、年間計画等を指導主事が説明 ・研究授業結果分析報告

	H28「新しい学びプロジェクト研究協議会」連絡協議会	1回	・校長、教育センター指導主事が出席（大阪） ・H27 事業・会計報告、H28 事業計画・予算案・研究活動など
7	探究型学習推進チーム研究授業（協調学習マイスター招へい）	1回	（高）数学：さいたま市立浦和高等学校 癸生川 大 教諭 （中）理科：広島県安芸太田町立戸河内中学校 原田 優次 教諭

(2) 協調学習（知識構成型ジグソー法）を用いた授業具体的事例

<実践>

・6月3日（金）「国語」（中学校3年生 高等学校体験授業）での実践例

目標：話し合いを通して、登場人物の人物像や心情、筆者が伝えようとしたことを考え、表現する。
内容：『徒然草』『猫また』を音読して内容を把握したうえで、筆者はこの文章で何を伝えようとしたか、考える。

〔授業で使ったパワーポイント〕
平成28年6月3日（金）高知南中学校 高校体験授業

国語（古文）
『徒然草』兼好法師

「奥山に、猫またといふものありて」
（第89段）

「協調学習（知識構成型ジグソー法）」学習の流れ

本文（現代語訳）の音読

①【課題】に取り組む

エキスパート活動
3班に分かれて話し合い、②A～Cの間に取り組む

ジグソー活動
5班に分かれて話し合い、③課題に取り組む

クロスワーク活動
班ごとに話し合いの内容を発表し、全体共有する④

⑤【課題】に取り組む（再考）

ジグソー活動での発表の仕方

◆例

「（ ）の問いは（ ）です。
それに対する班としての意見は、
（ ）です。」

なぜなら、文中に（ ）と書かれてあり、これによって（ ）と
いうことが考えられるからです。」

〔生徒の感想〕

- 自分とは違う視点から見た意見なども聞いて自分の考えを深めることができました。
- 自分の思っていることだけでなく、いろいろな考えが出てきて、筆者の考えがよくわかった。
- いろいろな班からさまざまな意見を聞いた。自分が思ってもなかった意見が出て、見方が広がった。
- 古典に登場する人それぞれの考えの違いや、筆者の思いが話し合いで分かってくると思った。
- 話し合いを通じて古典のおもしろさが分かってきた。古典をもっと勉強してみたいと思った。

〔授業者のコメント〕

今回は、ICT機器を活用しながら、古典の協調学習による授業に取り組んだ。生徒アンケート結果は、「本時のねらいを達成できた」→「そう思う」61.5%、「まあまあ思う」30.8%（以下項目同じ）、「自分の意見を書くことができた」→76.9%、23.1%、「話し合いで考えを深めることができた」→69.2%、23.1%と肯定的評価が多かった。しかし、振り返りの時間を十分取ることができず、提出させたワークシートの記述も根拠が不十分なものが多かった。生徒の自己評価は高く、自分で考え、話し合うことができたという意識はあるが、記述の面で課題が残った。

<今後の取組>

- ・授業のねらいに照らし合わせた振り返りをより意識し、協働的な活動を通して深まった自分の意見や考えを、根拠をもって言葉や文章で表現できるよう、探究的な授業の構成を研究する。
- ・授業で付けるべき力が身に付いたかどうかを見取る具体的な評価規準、評価方法を検討する。

(3) ICT（タブレット端末等）の活用

・平成27年度の授業におけるタブレット活用の状況は以下のとおりである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
活用件数	4	0	29	13	0	53	53	59	56	33	82	9	391

※ 6月：スカイメニュー授業ソフト導入 8月：タブレット活用研修会2回実施

<昨年度の成果>

- ・夏休みに研修会を2回開催したことにより、それ以後の活用率が大幅に上昇した。
- ・ICTを活用した授業実践により、生徒の意欲・関心を喚起し、主体的で協働的な学びにつながっている。
- ・平成28年4月23日に東京で実施された「タブレット端末活用セミナー」（一般社団法人 日本教育情報化振興会主催）で、高知南高等学校の取組について、森田昌吾教諭が実践発表を行った。

<今後の取組>

- ・身に付けさせたい力を明確にし、ICTを効果的に活用した授業実践を引き続き推進していく。

V 協議事項

高知南中学校・高等学校では、「課題に対して、協働的な活動を通して自分の意見や考えを深め、根拠をもって表現する力」を身に付けた生徒の育成を目指している。それを達成するための手立てとして、協調学習などアクティブ・ラーニングの手法を授業に積極的に導入し、探究型学習推進チームや教科会での授業研究に取り組み事例を増やすとともに、昨年度作成した「探究型学習事例集」の有効活用を考えている。

アクティブ・ラーニングの実施や普及のために、「探究型学習事例集」については、校内研修や若年教員研修等での活用が考えられるが、効果的な活用方法や普及に必要な観点についてのご意見等をいただきたい。